

第4回卒業生へ
卒業特集
記念号

「虚構の美」と味わって!

卒業式前日に三好達治の詩を紹介するのは理由があります。この詩の二行目までは、日常の何気ない自然を切り取った場面ですが、最後に「ああ、ヨットのようだ」と、蝶の羽をヨットに例えています。その瞬間、現実には土の上だった世界が、一瞬にして「海」に変わります。詩の世界ではこれを「虚構」といいます。つまり「うその世界」ですね。

学校でこの世界観を Live で味わえる唯一の機会が「卒業式」だと思っております。現実には体育館ですが、3月10日だけは3年生が主人公の舞台に変身します。現実には、昼休憩にバスケをしたり、集会で喝を入れられた場所ですが、明日は嬉しさと悲しみがごちゃごちゃになるステージになります。3年生、今まで本当にありがとう。明日はともに最高の式にしよう。

土
三好達治
ああ 蝶の羽をひいて行く
ヨットのようだ

君へ贈る歌 ~44人の仲間たちと~

- 4月 一面に菜の花。「行ってきます!」と元気に登校する君
- 5月 まぶしい緑。友人の佳いところを夢中で話す君
- 6月 強まる日差し。試合帰りに茉莉花(ジャスミン)ティーを飲む君
- 7月 山からの心地よい風。葵の花言葉は「温和」だと教えてくれた君
- 8月 夏休み真っ盛り。「勉強を基礎基本からやり直す。」と宣言する君
- 9月 秋季テスト後の帰り道。一番星を見つけてはしゃぐ君
- 10月 橙色に染まる楓の葉。弁士として舞台に立つ君
- 11月 コロナ禍の木枯らし。学校の笑い話をその都度話してくれる君
- 12月 遠くからジングルベル。大好きなあいみょんの歌を侑(すず)めてくれる君
- 1月 小春日和。千変万化の時代でも仲間に平等に接する君
- 2月 励ますような柊の大樹。進路について朋と語りあう君
- 3月 桃の花一輪。好きな本のページに葉をはさんだ君

すべての年月が愛おしい。
一緒に歩んだ歴史がなつかしい。

今日は 卒業式。
親としてかっこいいみことばは贈れないけど
凜とした空気の中で
堂々と中央を歩く君の姿を心にとどめたい。
今日まで健やかに成長してくれたこと うれしき哉(かな)。
明るい未来を自らの手で拓き 大志を抱け 君よ

結びに
悠久に君に倖(さち)あらんことを祈る



卒業 おめでとう!